

令和3年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	06	02	01	164370	森林保全啓発事業費	
総合計画	分野	01	しごと	政策	01 農林業の振興	
	施策	05	森林の保全			
目的	森林の保全を推進するため、森林に触れる活動を展開し意識啓発を図る。					
対象	森林整備の関わりについて啓蒙普及を推進、実践したい市民					
意図	森林保全の意識啓発と森林保全活動の普及をする。					
事業概要	森林保全意識啓発 231千円 木工体験教室 自然観察会 植樹体験 森林保全活動啓発 3,344千円 スモール・フォレスト・カレッジ、安全講習 森林・山村多面的機能発揮対策事業 1,831千円 里山林の保全活動等の取組に対する支援					
市民参加の有無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	各種イベントの開催回数	回	計画	6.00	6.00	
			実績	4.00	2.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	各種イベント総参加人数	人	目標	310.00	310.00	
			実績	293.00	152.00	
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い	概ね目標値どおり	目標値より低い			

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
森林保全について啓発するため、各種イベントを開催した。新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり一部のイベントを中止・規模縮小などを行ったため、目標指数には至らなかったが、今後、子どもたちを対象とした植樹体験や親子木工体験なども市民の森林に対する意識啓発を図る必要があることから、継続して実施する必要がある。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	本事業は森林保全の推進により、社会的に求められている森林多面的機能の発揮を目的としており妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	イベントの内容を充実させるとともに、周知活動に力を入れることで成果を向上させることが可能と思われる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	地域活動、ボランティア活動への支援により、コスト抑制に努めている。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	市民全体を対象とした事業である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	山の手入れ作業や森林の恵みを体験するイベント等を通じて、森林についての理解を深めた。
	次年度に向けて	森林に触れる各種イベントを開催し、森林多面的機能への理解、意識啓発を促していく。

令和3年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	06	02	02	164420	森林環境保全事業費		
総合計画	分野	01	しごと	政策	01 農林業の振興		
	施策	05	森林の保全				
目的	民有林の保全のため、松くい虫被害拡大を防止するとともに、林野火災等森林災害の未然防止、適正な維持管理を行う。						
対象	民有林（市有林、私有林）およびその赤松						
意図	民有林を保全する						
事業概要	森林病虫害駆除 29,223千円 赤松枯損木の伐倒駆除（焼却またはくん蒸） 市有赤松への薬剤樹幹注入作業 森林整備事業による樹種転換（市有林） 私有林赤松への樹幹注入に係る補助 森林管理維持増進 2,013千円 私有地の巡視						
市民参加の有無							
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標			単位	区分	R02	R03	R04
1	駆除材積	m3	計画	1,261.00	1,100.00		
			実績	911.00	975.00		
2	私有林巡回回数	回	計画	168.00	168.00		
			実績	168.00	168.00		
3			計画				
			実績				
成果指標			単位	区分	R02	R03	R04
1	松くい虫被害量	m3	目標	3,800.00	3,600.00		
			実績	2,466.00	2,100.00		
2			目標				
			実績				
3			目標				
			実績				
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
松くい虫被害が減少することではなく、県が定める被害地域区分も先端地域から高被害地域に変更になった。限られた予算と投下できる作業量から考慮すると全量駆除は困難であり、被害が激減することはないと考えられる。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	森林の機能維持、林業振興の妨げになる森林病虫害であるため駆除は必要。また、市街地域における生活の支障になる倒木の発生を防ぐ観点からも必要な事業である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	被害対策防止のためのあらゆる対策を講じているが、被害量があまりに多く根絶は困難である。しかし、事業を中断することは森林の荒廃や林業振興の停滞、市民生活に支障を及ぼす危険な枯損木の増加につながるため、被害拡大防止のために事業継続が必要である。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	被害の蔓延化により、補助金の確保が困難になっている。駆除の方法や区域の見直しを検討し、効率的な駆除を進める。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	市内全域で駆除しているので適正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	重点的に駆除する箇所を定めた伐倒駆除や樹幹注入による防除作業、樹種転換による被害の空白化により、守るべき松林の保全が図られたが、それ以外の地域では被害が続いている。
	次年度に向けて	被害の蔓延化により、補助金の確保が困難になっている。駆除の方法や区域の見直しを検討し、計画的・効率的な駆除を進める。（面的な一斉駆除等）防除対策への転換が必要であることから、守るべき松林の樹幹注入、樹種転換など市有林において率先して進める。樹種転換による伐採木のさらなる有効活用を図る。